



岸和田未来共創計画

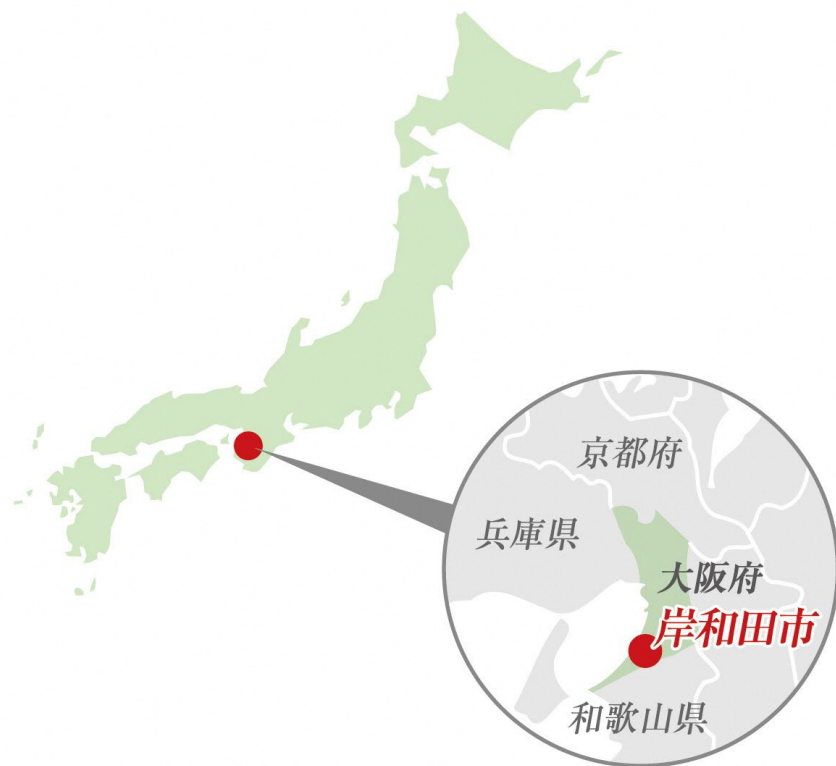
RéBORN 1.0

岸和田城とまちを未来へつなぐプロジェクト

2025.10.6

大阪府岸和田市

岸和田市 RéBORN 1.0 ■ 岸和田城とまちを未来へつなぐプロジェクト



文化

岸和田だんじり祭

歴史

寛永17年
岡部氏が入封

産業

鉄工、ガラス・
レンズ産業 ほか

漁業

府内No.1の
漁獲量

人口

185,838 人

アクセス

関空より
電車で 約15分

農業

府内トップの
産出額

岸和田市は、大阪府南部の市で、大阪湾に臨む中心市街は寛永年間（17世紀初め）以降岡部氏の城下町として発達し、明治中期以後は泉州綿織物を主とする紡織工業都市として発展しました。金属、機械器具、レンズ工業も行われ、臨海部の埋立地には1966年（昭和41年）以降木材コンビナート、鉄工団地が建設されました。

和泉山脈北麓と台地では溜池灌漑(ためいけかんがい)による米のほかタマネギ、ミカンや桃、春菊（きくな）などの栽培が盛んです。

また水産業も盛んで、市内には3つの漁業協同組合（春木漁業協同組合、岸和田市漁業協同組合、大阪府鰯巾着網漁業協同組合）があり、府内屈指の漁獲量を誇ります。

古くから「城とだんじりのまち」として知られる本市は、関西国際空港から車で約15分という距離にあり、「世界に一番近い城下町」とも呼ばれ、岸和田城は市民のシンボル、だんじり祭は市民の誇りとして、大切にされています。

岸和田市 RéBORN 1.0 ■ 岸和田城とまちを未来へつなぐプロジェクト

岸和田市の人口推移

2005（平成17）年	20万1,000人
2025（令和7）年8月	18万5,838人
2045（令和27）年	14万7,949人

※国立社会保障・人口研究所 推計値

少子高齢化、生産年齢人口の減少、
しかし、扶助費は増加

岸和田市の扶助費の推移

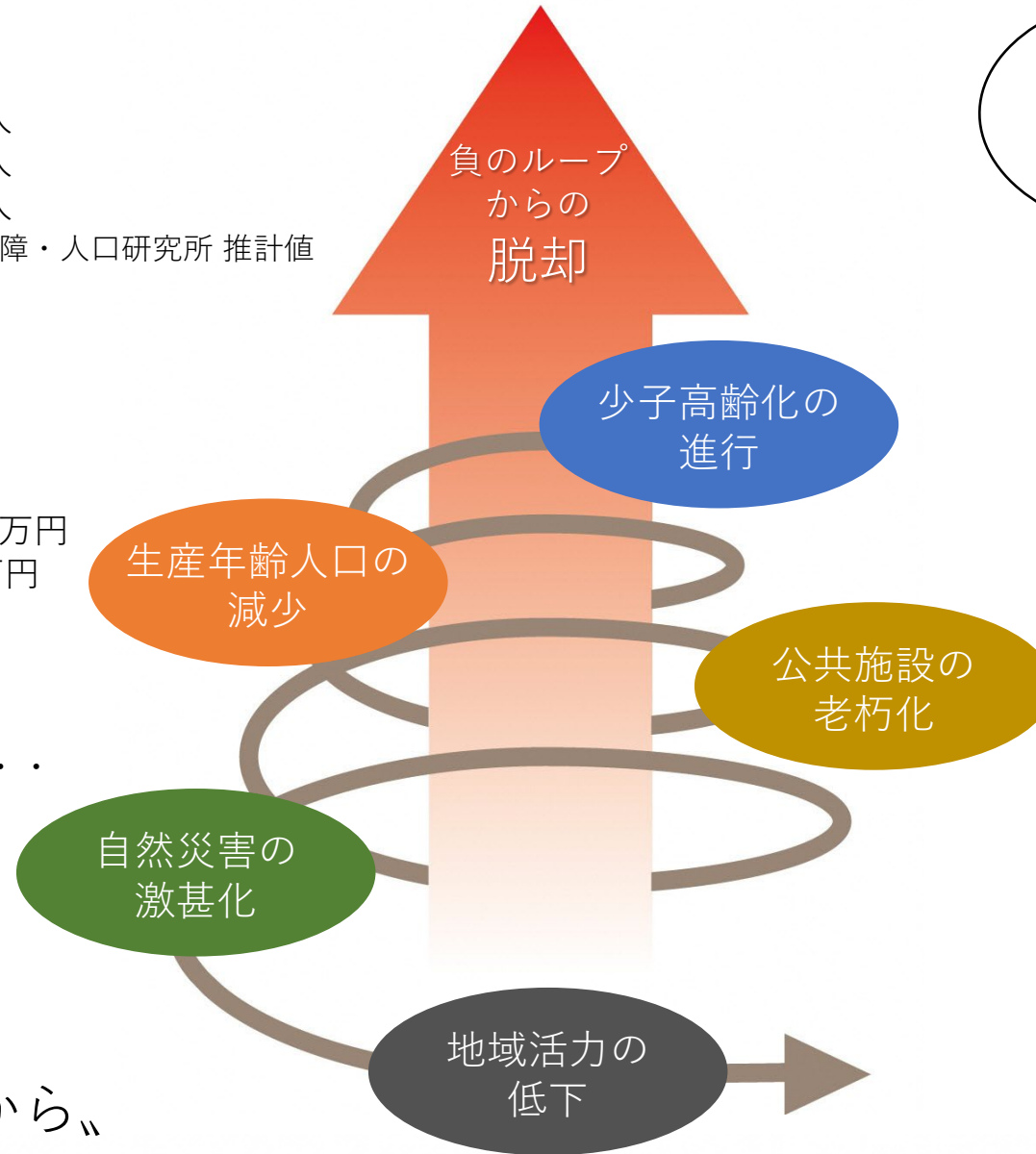
2005（平成17）年	142億8,000万円
2024（令和6）年	318億200万円

岸和田市を取り巻く「厳しい現実」

この「負のループ」からの脱却・・・

- ・ 城下町きしわだの再生
- ・ 南海トラフ地震への意識啓発
- ・ 多様性を尊重するまちの実現
- ・ 地域で創るまちの未来

“その1歩を岸和田城から”

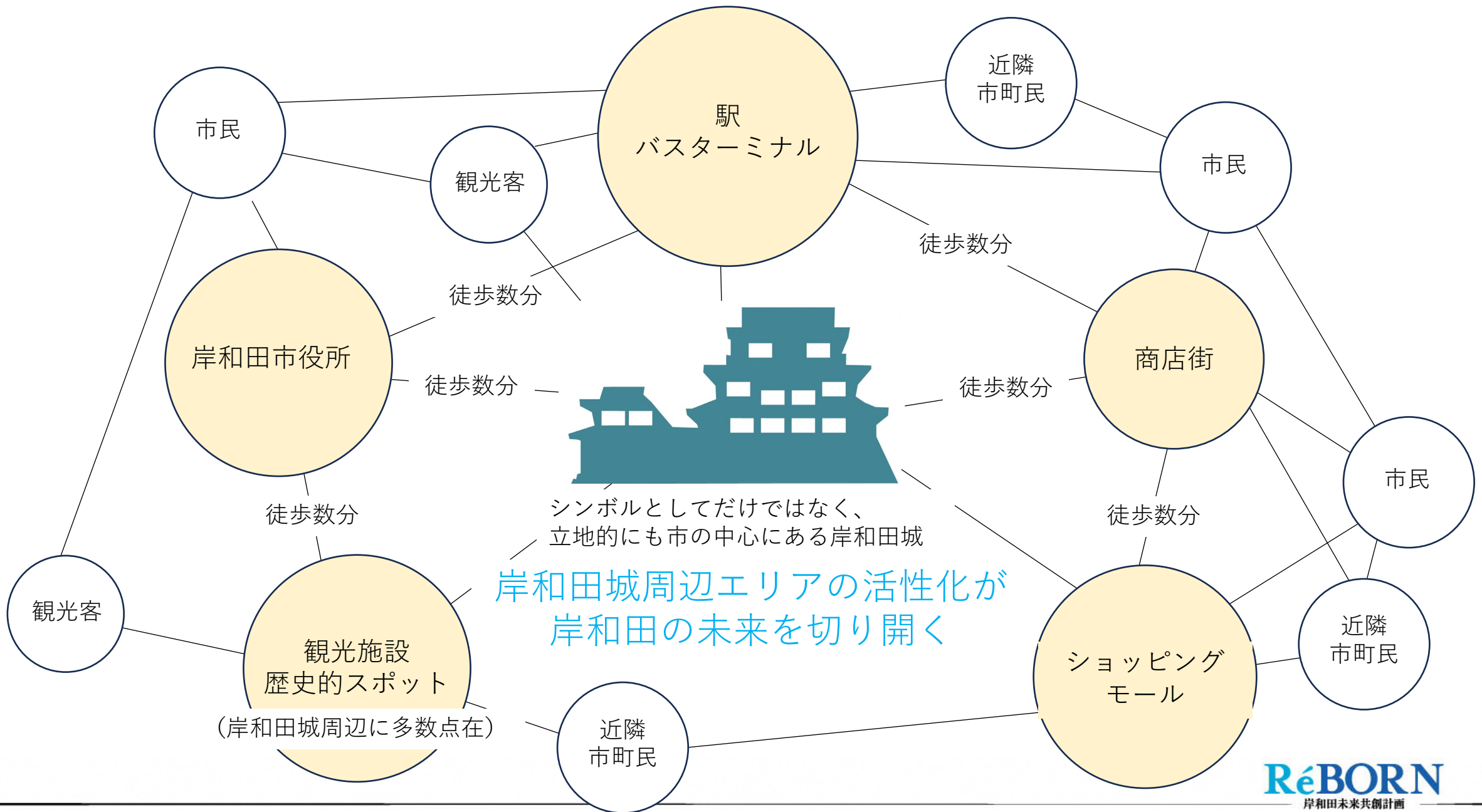


なぜ？

岸和田城から？



現在の岸和田城は、戦後復興のシンボルとして、1954（昭和29）年に再建。以降、岸和田市民のシンボルとして現在まで親しまれています。今回は未来へのシンボルとして、プロジェクトの中心に選定しました。



岸和田城から始める「まちづくり」



岸和田城の自慢のひとつに、特徴的、学術的に貴重な「石垣」があります。すべての石が支え合い、強固な土台を作る。どれかひとつのピースが抜けても成り立たない。この石垣のように、みなさんと一緒に支え合い、今ある課題に取り組んでいきたいと考えています。

1. インクルーシブなまちへ導く「障がい者や多様な価値観を持った人々が、国籍に関わらず楽しんでもいただける城へ」

私たちは、市民・企業・行政、3者一体で共創する、誰かがではなく、誰もが未来のまちづくりに参加できる。そして多様な考え、価値観をまちづくりに取り入れていく。そんな機運を醸成していきたいと考えています。その中心的位置づけに岸和田城（周辺）を据え、「インクルーシブなまちへ導く」という発想を城から始めてみたい、そう考えています。

2. 岸和田市の歴史を伝えきれていない展示設備「歴史資料館として新設」

江戸時代、城下町として栄えた岸和田には、今も歴史的資料が数多く残っています。岸和田を知ってもらう玄関口に。市民にとっては、わがまち知り、さらに自信を持っていただく生涯学習拠点のひとつとしての機能を新設したいと考えています。

3. 文化財との共存「収益を文化財の保存へ」

岸和田に残る、有形・無形の文化財。これらを保存し、そして共存する。文化という財を未来につなげる、さらなる時間の経過とともにその文化的価値はさらに高まっていくと考えます。

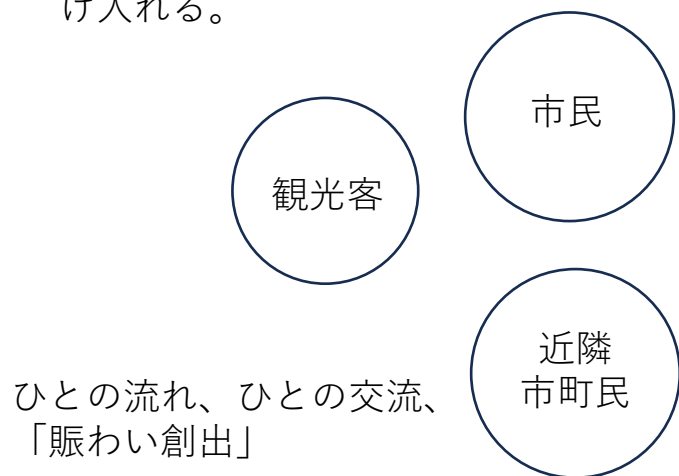
4. 南海トラフ地震への備え「岸和田城の耐震化」

昨今多発する災害への備え、貴重な文化的財産を守ることはもちろんのこと、私たちの市民の「精神的な支え・シンボル」を、災害から守っていききたいという思いがあります。耐震改修による強固な城づくりののちには、エレベーター設置などバリアフリー化による車椅子ユーザーやお年寄りなどへの支援、先にも記載したインクルーシブな城づくりにも繋げていく考えです。

岸和田城から始める「まちづくり」 改修後の取組

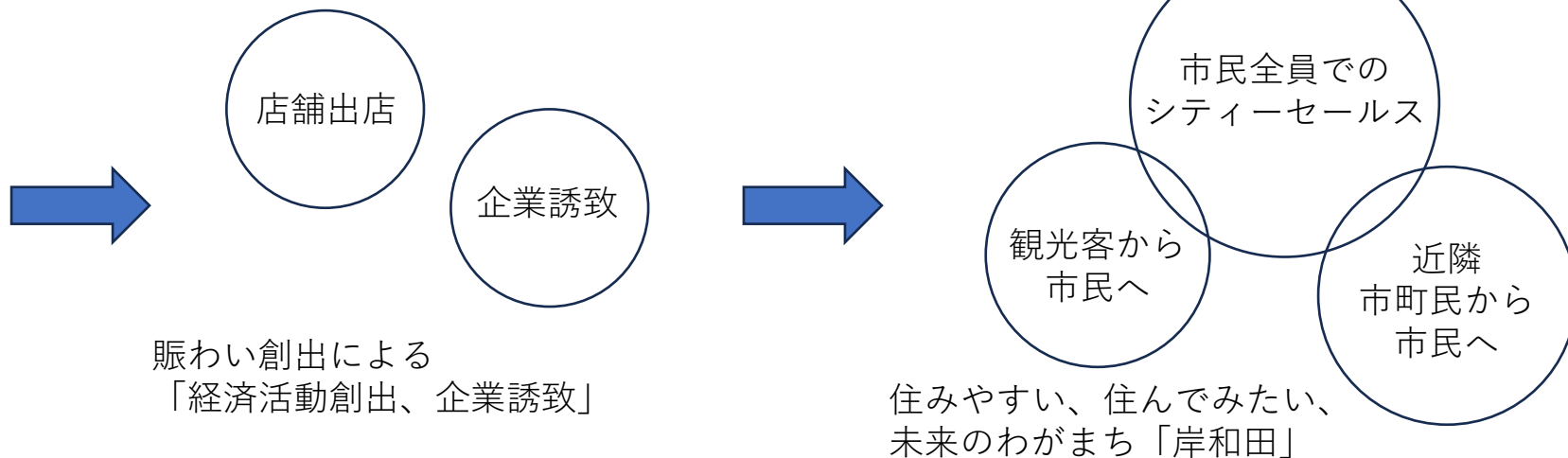
1. エレベーター設置・バリアフリー化・インクルーシブ社会実現

これまで岸和田城に来場できなかった車椅子ユーザーやお年寄りなどへの支援。誰にでも楽しんでもいただける「バリアフリーエリア」の整備。国籍にかかわらない来場者、来岸者を快く受け入れる。

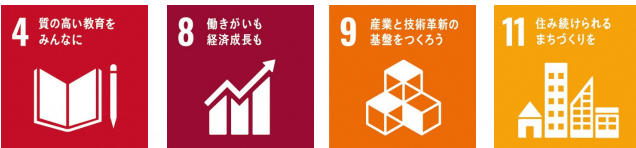


2. 展示設備のリニューアル

観光客へのアプローチはもちろん、市民に向けて、生涯学習的要素とともに、歴史、文化の深さに触れることによる、わがまちに誇りを持てる機運醸成。市民が自らシティーセールスしたくなるまちづくりを目指す。



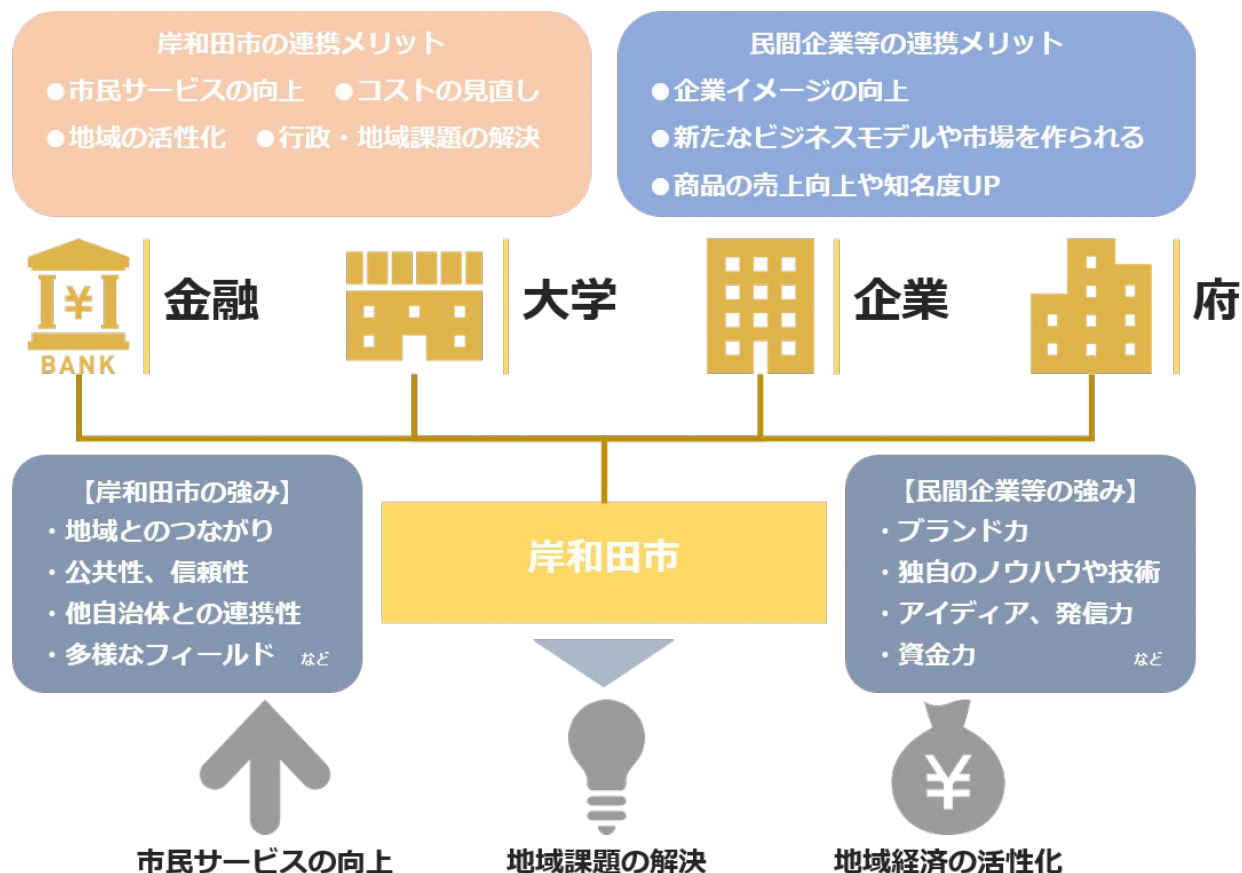
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



岸和田城周辺エリアの活性化が岸和田の未来を切り開く

自慢できる、誇りが持てる「まちづくり」をゴールに！

企業のみなさんと実現したいこと



1. 知恵のパートナーシップ協定

これからのまちづくりは、市民・企業・行政、3者が一体となり進めることが肝要と考えます。各者のもつ強みを生かし、みなさんの「知恵」をお借りし、協働、協業いただけるパートナーを探しています。

2. 市民がもつ情報の共有、行政がもつネットワークの活用

市民（ユーザー）が持つ情報の共有・提供、行政がもつネットワーク（異業種との交流、貴社とのマッチング）活用など、それぞれの強みを生かし支援しあう体制構築を目指します。

3. 企業ふるさと納税によるESGの向上

いただいた寄付は、「岸和田城から始めるまちづくり」などに充てさせていただくとともに、貴社の広報PRや、企業、市民とのマッチングなど協力させていただきます。

企業のみなさんと実現したいこと

企業との共創実績

1. 日本郵政株式会社（郵便・物流事業）

公民連携事業・包括連携協定の一環として、車両等でのPR、市内ポスト（206か所）でのPR活動（準備中）など、スケールメリットを生かした情報発信への協力・共創をいただいております。



2. イオン株式会社（流通グループ）

公民連携事業・包括連携協定の一環として、WAON（電子マネー）の利用額の一部を岸和田城へ寄附。市内店舗での特産物・特産品の販売（生産者とのマッチング）など、市民に「場」の提供をいただいております。



3. 株式会社岸和田グランドホール（レストラン事業ほか）

市内で各種ホール事業やレストラン事業を展開する地元企業。「岸和田城挙式」など、ひとの心に残るアイデアの創出、ドラマなどへのロケーションサービス、岸和田城への寄付活動なども積極的に行っていただいております。



4. 関西大学 外国語学部

関西大学に集う若い発想をまちづくりに生かす施策、外国語学部の学生のみなさんとのまちづくりアイデア共創や、デジタルマップ作成依頼など、10年、20年先を見据えたアイデアの提供をいただいております。



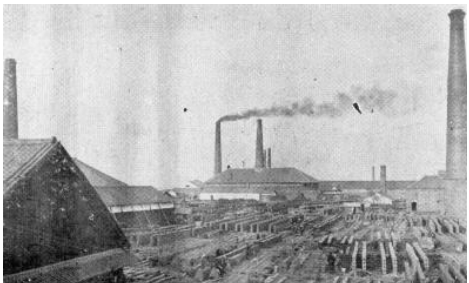
RéBORN/With 本プロジェクトとともに/岸和田広域交流の未来を考える

RéBORN /With 時間を広く考え、未来へ紡ぐ

文化的資料（文化財）を良い状態で残し、公開することは、観光事業に寄与することはもちろん、市民の生涯学習のテキストとしても、非常に価値があることと考えます。

時代が明治にかわり、産業のまちとして栄えた岸和田にとって、日本の産業革命史における大阪・岸和田の発展資料もぜひ後世に残していきたい文化的資料と考えております。

「東洋のマンチェスター」岸和田の産業革命



明治時代、岸和田の主要産業の一つが煉瓦産業でした。岸和田の粘土が煉瓦の製造に適していると知った元岸和田藩士の山岡尹方は、1872（明

治5）年に煉瓦製造事業を開始。急激な日本の西洋化とともに煉瓦の需要は高まり、岸和田には岸和田煉瓦株式会社、大阪窯業の工場などが立ち並び、煉瓦の一大産地となりました。

のちに“岸煉（キシレン）”の名で親しまれる岸和田で製造された「岸和田煉瓦」は、日本の近代建築に広く使われた主要な煉瓦で、同志社大学のジェームス館など、近代日



本の多くの重要な建造物で利用され、今も日本各地に残っています。

そして、煉瓦産業と並んで岸和田を代表した近代産業が紡績産業です。1894（明治27）年、最新の紡織の機械技術と大量の綿花を輸入し、岸和田紡績株式会社を設立。日本有数の大企業に成長させました。

岸和田の煉瓦・紡績産業の発展は大阪全体の近代化を支え、泉州を含む大阪湾沿岸部の一大工業地帯は、産業革命で世界の綿工業の中心となったイギリスの都市にたとえられ「東洋のマンチェスター」と呼ばれるようになりました。

ReBORN/With 本プロジェクトとともに/岸和田広域交流の未来を考える

ReBORN /With 新たな広域交流拠点～山直東～の形成

岸和田市と和泉市の境界部分から熊取町の国道170号までを繋ぐ「泉州山手線」。物流や人の流れなど周辺市町とも連携することにより、ひと・モノ・コトの広域交流拠点として共に発展できる地域の形成を目指していきます。



そこに住まうみなさん、そこで業を営むみなさんには、いかに効率的に、発展的に活用するための施策を一緒に考え、進めていただきたいと思います。



詳しくは、こちらからご覧いただけます

ReBORN /With 岸和田港湾「環境創造型まちづくり」



港湾物流機能の強化・拡充をはじめ、地域の産業の活性化、さらには海浜緑地、人工干潟等水辺環境の整備など魅力ある海浜空間が誕生しつつあります。

立入禁止となっている人工干潟では、野鳥や水生生物など海浜の動植物を守り育む生物のサンクチュアリ（保護地）となっています。

産業としてのまちづくりだけではなく、自然との共生、自然を失うことなく経済活動も進める、未来に大切なものを残す発展スタイルを目指しています。



堅城復古

with
クラウドファンディング

これまで落城したことのない岸和田城に危機が訪れた！

岸和田城天守閣は、2019（令和元）年7月、耐震診断を実施。大天守及び小天守ともに、震度6強以上の大地震時、倒壊または崩落の危険が高い結果となりました。

耐震対策の実施にあわせて、バリアフリー化も行う予定であり、自力で階段を昇り降りすることが難しい方でも天守閣の最上階まで登っていただくことができるようになる予定です。

岸和田城は、2029（令和11）年に再建75周年を迎えます。75周年を記念した新たな岸和田城の展示を岸和田市民や全国のお城ファンの方々と作っていくために、クラウドファンディングを実施します。

お問い合わせ

岸和田市役所 魅力創造部観光課 TEL：072-423-9486 mail：kankou@city.kishiwada.osaka.jp



支援受付中！

（100万円以内の寄附専用）
オンライン寄附申出

✓ 書類作成不要 / Webとメールで完結
✓ クレジットカード・PayPay決済限定



岸和田市 企業版ふるさと納税

検索



RéBORN

岸和田未来共創計画

1597 慶長二年 豊臣秀吉の叔父である、小田秀政が天守を築く
1827 文政十年 落雷により、天守焼失
1954 昭和二十九年 国書館として再建
1992 平成四年 平成の大改修
2030 令和十二年 リニューアルオープン
future

岸和田城周辺を一緒に考えてくださる企業様のお声がけを、お待ちしております。

岸和田市 RéBORN 1.0 ■ 岸和田城とまちを未来へつなぐプロジェクト

岸和田市役所 魅力創造部観光課（担当：井上 江美）

TEL：072-423-9486

mail：kankou@city.kishiwada.osaka.jp